

ビブリオバトル公式ルール

① 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。

② 順番に1人5分間で本を紹介する。

③ それぞれの発表のあとに、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分おこなう。

④ すべての発表が終了したあとに「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員1票でおこない、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。


第3章


楽しいビブリオバトルのためのヒント





自分で本を選ぼう



 わたしの選んだ本は、おねえちゃんからすすめられた本だけど、それでもいいの？

 その本をさおりさんが読んで、「おもしろい！」と思ったから選んだのでしょ。それだったらもちろんOK！
でも、自分が選んだのではなく、たとえばだれかから「これにしなさい」といわれて選んだのではダメですよ。

 でも、学校では野口先生が「ビブリオバトルの本は、わたしが選んだ本の中からにしなさい！」って。

 それは大変！ すぐ先生に連絡するわ。



もしもし、野口先生ですか。
司書の桐山です。

こんにちは。先日はビブリオバトルを紹介してくださって、ありがとうございます。今度、授業でおこなおうと思っていたところなんですよ。



先生が選んだ本を紹介本にすると聞きましたが、それはほんとうですか？

はい、子どもたちにはまず来週までに、わたしが選んだ10冊の本から1冊を選んで、読めなさいといいました。



それはいけません。先生、ビブリオバトルの本は、子どもたちが読んで「おもしろい！」と思った本を自由に選ばせてください。

えっ、そうなんですか。

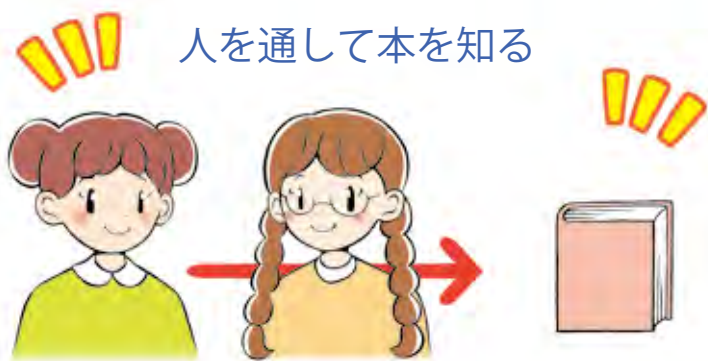
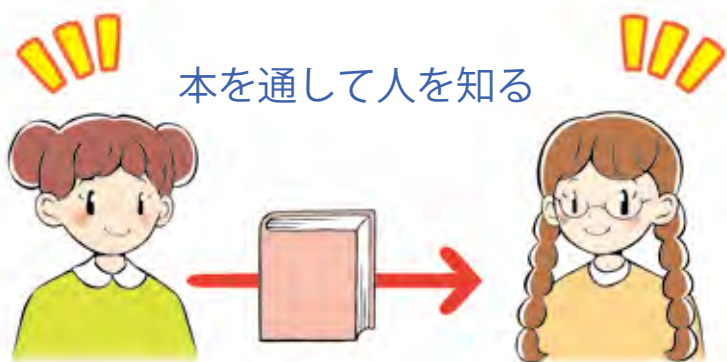




ビブリオバトルは

「本を通して人を知る・人を通して本を知る」場なのです。

紹介する人がどんな本を選ぶか、そこが大きなポイントです。そこで、「へえ、あの人はこういうことが好きだったのか」とか「こんなにおもしろい本があるんだ!」と新たな発見があるのです。



よくわかりました。

ビブリオバトルは、本とのであい、人とのであいの場なのですね。



はい、先生。

ぜひ、子どもたちにとってワクワクするようなであいの場にしてください。

きりやま
★桐山さんメモ MEMO

★本選びのわけ

いくらすばらしい本でも、自分でおもしろいと思った本でなければ、そのすばらしさを人につたえることはむずかしいでしょう。ですから、ビブリオバトルで発表する本はかならず、自分で選んでください。そうすることで、「わたしはこんな本が好きで、こういう考えの持ち主です」ということを発表する場にもなります。

たとえば、新学期にビブリオバトルをやってみませんか。新しいクラスで知っている人がだれもいないときに、ビブリオバトルをすることで、きっとお互いがよくわかる自己紹介の場になることでしょう。

また、よく知っているメンバーでおこなっても、紹介した本からその人の新たな一面を見いだせることもあるのです。

そしてもう一つ、ビブリオバトルの楽しみは、新たな本とのであいです。今まで読んだことのないジャンルの本を知ったり、いろいろな読み方があることを発見できるかもしれせんよ。



※学校でのビブリオバトル開催時によくおこなわれがちなのが、教師が課題図書などを指定することです。それは「自分で本を選ぶ」というビブリオバトルのルールからはずれてしまいます。楽しいビブリオバトルをおこなうためにも、参加者本人が自由に本を選べるようにしましょう。